

## 第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 T1 学級担任  
T2 栄養教諭  
T3 特別支援学級担任

### 1 単元名 かがやけ命

### 2 単元設定の理由

日本は食品ロスの多い国であり、国民一人あたりに換算すると毎日おにぎり約1個分を捨てていることになる。私たちが生きていくために「食べること」は欠かせない営みであり、毎日の食事は多くの動植物の命と食に携わる人々の働きの上に成り立っている。「いただきます」「ごちそうさま」という食事のあいさつは、そうした動植物の命や食に携わる人々へ感謝の気持ちを伝えるためのものであり、日本文化の美しさを表す特徴的な言葉であると言える。その言葉に込められた意味について考えることは、飽食の時代といわれている現代においてとても大切なことである。

本学級では、前期に「阿南市の食べ物発見」で地産地消について学習している。調べ学習やインタビューを通して、地場産物のよさや生産者が工夫や苦勞をしながら自分たちが食べている物を大切に作ってくれていることを理解するとともに、給食に使われている食材への関心や残さず食べようとする意欲も高まってきている。しかし、食事のあいさつについては、元気よくできてはいるものの、その言葉の意味を理解したうえで、気持ちを込めてできている児童は少ないと感じる。また、苦手な食べ物をなかなか克服できずに残してしまう児童も多く見られる。

本単元では自分の命と家族や友達との関わりを考えるだけでなく、給食や防災といった様々な面から自分の命を守り支えてくれる人とのつながりを考える活動を通して、自他の命の大切さを改めて感じたり、受け継がれてきた命を輝かせるために、よりよい生き方ができるように生活の仕方を考えたりする力を育てたい。

食育においては、給食がどのようにして作られ、届けられているのかを考え、友達と意見を交流する活動を通して、命をいただいている動植物や自分たちの見えないところで働いている人々の存在や思いに気付かせたい。そして、自分たちの命を支える動植物や食に携わる人々へ感謝の気持ちを込めて食事のあいさつをすることで、命を大切にし、他者を思いやる心を育てたいと考え、本単元を設定した。

### 3 単元の目標

自分の命と他者とのつながりを考える活動を通して、自他の命の大切さや自分の命がたくさん物や人々によって支えられていることを理解し、受け継がれてきた命を輝かせるために自分にできることを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

### 4 食育の視点

動植物の命をいただいて自分の命をつないでいることや、食に携わる人々の働きについて理解を深め、感謝の気持ちをもって食事をするとともに、残さず食べようとする意欲を高める。

<心身の健康><感謝の心>

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 災害の怖さを知り，防災・減災について必要な事柄を理解している。	① 課題解決に向けて，自分の考えを整理したり，友達と伝え合ったりしている。	① 自分の命を守り支えてくれているものに感謝し，よりよい自分になろうという気持ちを高めている。
② 自分の命を守り支えてくれる人の存在を知り，自分とどのように関わっているかを理解している。	② 自分の命を守り支えてくれているものに感謝し，命をより輝かせるために自分にできることを考えている。	② 感謝の気持ちを，自分なりの方法でまとめようとしている。

## 6 指導計画（全30時間）

第1次	災害から命を守ろう・・・・・・・・・・5時間
第2次	戦争と命について考えよう・・・・・・・・2時間
第3次	命を支えているものに感謝の気持ちをもとう・・・3時間（本時1／3）
第4次	受け継がれてきた命をかがやかせよう・・・・・・・・20時間

## 7 本時の学習

### （1）目標

「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味を知り，自分たちの命を支える動植物や食に携わる人々へ，感謝の気持ちをもって食事のあいさつをしようとする意欲をもつ。

### （2）展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
1 学習課題をもつ。 （5分）	○給食の写真を提示し，食べる前後でどんなあいさつをどのような気持ちでしているかを振り返ることで学習課題につなげる。 （T1） ・いただきます ・ごちそうさま ・早く食べたい ・おいしかった	
どうして「いただきます」というのだろう		
2 「いただきます」という言葉の意味を考える。 （3分）	○「いただきます」という言葉の意味について問う。（T1） ・食べ物への感謝の言葉	
3 食事が手元に届くまでに携わる人々について考える。（27分）	○食事が手元に届くまでにどのような人々が携わっているかを考え，タブレット端末で意見を共有できるようにする。（T1） タブレット操作補助（T3）	

<p>4 今日の学習を振り返って、思ったことや分かったことをまとめ、伝え合う。(10分)</p>	<p>○今日の給食に使われた食材を用意し、手元に給食が届くまでに携わっている人を4つの観点からまとめる。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物を作る・育てる人(生産者)</li> <li>・運ぶ人(食材・給食を届ける人)</li> <li>・調理する人(調理員)</li> <li>・準備する人(学校の先生・給食当番・保護者)</li> </ul> <p>○市内の牧場の動画を提示し、牛を育てている人の思いや、命をいただいて自分の命をつないでいることを伝える。(T2)</p> <p>○「いただきます」「ごちそうさま(御馳走様)」の意味を知らせる。(T2)</p> <p>いただきます:食べ物の命に「ありがとう」 ごちそうさま:はたらく人に「ありがとう」</p> <p>○今日の学習の感想を書き、発表させることで、感謝の気持ちをもって食事のあいさつをしようとする実践意欲をもたせる。(T1)</p>	<p>「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味を知り、自分たちの命を支える動植物や食に携わる人々へ、感謝の気持ちをもって食事のあいさつをしようとする意欲をもつ。 (ワークシート)</p>
--	--	---

### (3) 評価

<p>「十分満足できる」と判断される状況</p>	<p>「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知り、自分たちの命を支える動植物や食に携わる人々へ感謝の気持ちをもって、残さず食べようとしている。</p>
<p>「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導</p>	<p>友達の見意見を参考にするよう助言する。</p>

## 8 栄養教諭の関わり方

- ・毎日食べている給食の写真を提示することで、給食時間を振り返ることができるようにする。
- ・食事が手元に届くまでに携わる人々を紹介し、生産者の思いを伝えることで、感謝の気持ちをもったり、給食を残さず食べようとする意欲を高めたりすることができるようにする。
- ・学習内容を家庭に知らせるための動画や食育だよりを作成する。

## 9 家庭・地域との連携

### <家庭>

- ・学習で使用したワークシートを持ち帰り，子どもたちへのメッセージを記入してもらおう。
- ・児童が学校での取組を保護者に伝えることで，家庭でも食事のあいさつや残さず食べることの大切さを再認識できるようにする。

### <地域>

- ・地元で牛を育てている人の話を聞いたり，牧場を見学させてもらったりする。

### <共通>

- ・取材を元に，牧場の動画や食育だよりを作成して，家庭に配付する。

## 10 他教科との関連

- ・社会科：「はたらく人とわたしたちの暮らし」
- ・道徳：「赤ちゃんのときのこと」「いのちのまつり」
- ・国語：「ちいちゃんのかげおくり」

# どうして「いただきます」というのだろう

3年

名前( )

○今日の学習でわかったことや感想を書きましょう。

Blank writing area with horizontal lines for notes.

○今日学習したことをおうちの人につたえよう。

おうちの方から

